政務活動費 活動実績報告書

令和７年８月４日
花下主茂

件名	八女市議会１期生 合同視察研修
使途	1 調査研究費　　2 研修費　　5 要請・陳情活動費
金額	７，１８０円
期日	令和　７年　７月　１４日（月）
場所	八女市内
目的	本研修は、八女市議会１期生による定期的な学びの機会として実施されたものであり、今回は「斎場の在り方」と「治水・農業用水の現状」を主なテーマとして、市内各地における現地視察を行った。 地域課題の現場に直接足を運び、行政説明および現場の思いに触れることで、議員としての視野を広げ、今後の政策形成や議論に活かすことを目的とする。 研修内容としては以下の通り ・公共施設老朽化の状況について └黒木斎場 ・矢部川流域の治水利水の現状について └日向神ダム事務所、花宗用水組合、立花町山下地区排水機場
参加者	花下主茂、原田英雄、小山和也、久間寿紀、古賀邦彦、水町典子、坂本治郎（計７名※敬称略）

概要

及び

所管

■ 黒木斎場（環境課所管）

概要

黒木斎場は、旧黒木町時代から地域住民に利用されてきた火葬施設であり、八女市内の斎場としては最も古い歴史を持つ。広域合併後も旧町村ごとに斎場が残存しており、黒木斎場はその象徴的存在である。現在、構造物の老朽化と稼働率の低下が顕在化しており、将来的な施設再編の対象となっている。火葬施設は市民生活に直結する基礎的サービスであり、地域事情と市全体の合理性をどう調和させるかが問われている。

R7.7.14 八女市議会議員黒木斎場現地視察

（令和7年4月1日現在）

	黒木斎場	上陽斎場	矢部斎場	星野斎場	八女西部斎場（旧八女＋立花）
場　所	黒木町今1621番地1	上陽町北川内3628番地	矢部村北矢部5267番地5	星野村5447番地1	今福東原1356番地1
稼働開始	昭和47年4月	平成9年11月	昭和61年12月	平成8年4月	昭和54年10月
経過年数	53年	28年	39年	29年	46年
年間利用件数（令和6年度実績）	220件	81件	22件	56件	799件
維持管理費（令和6年度実績）	16,419,685円	4,622,535円	2,684,671円	3,202,267円	21,378,000円
1件あたり必要経費	74,635円	57,068円	122,031円	57,183円	26,756円

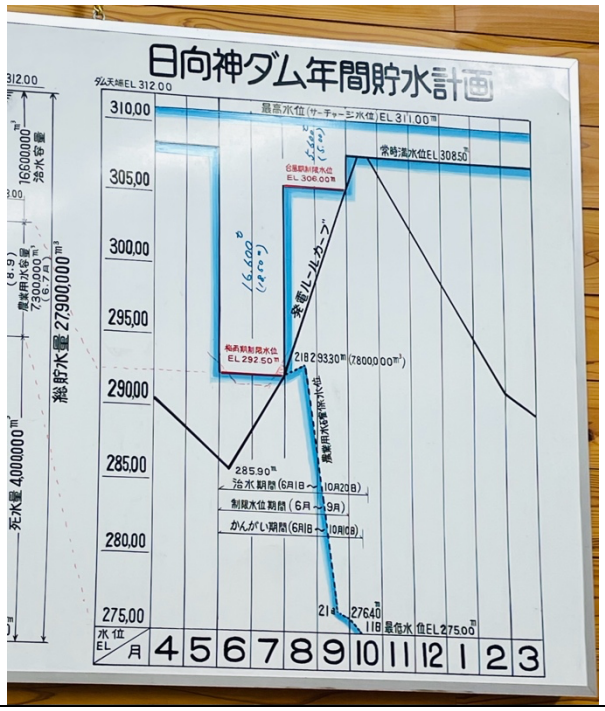
所管・課題

- 施設の老朽化が著しく、維持費や安全性の面で課題が多い
- 合併市域内の斎場再編について、全体方針が未策定
- 統廃合を進める際は、地域感情への丁寧な対応が不可欠

■ 日向神ダム（福岡県県土整備事務所所管）

概要

昭和 28 年の西日本豪雨を契機に整備された、福岡県最古の多目的ダムであり、総事業費 48 億円・220 戸の移転を伴い、昭和 37 年に運用開始。矢部川の最上流部に位置し、下流の八女市・筑後市などの洪水リスク軽減や、流水機能の維持、発電を目的とする。職員 5 名体制で運営され、年間の貯水水位計画に基づく管理が行われているが、気象変動に伴う対応の限界が感じられた。



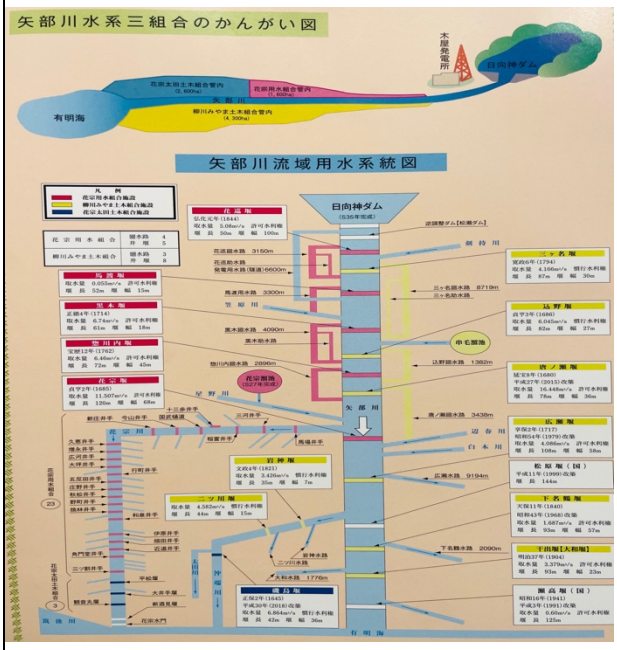
所管・課題

- 異常気象への柔軟な運用対応が困難（例：今年 6 月の早期梅雨明け）
- 夜間・警報未発令時の放流では市との情報共有が不十分
- 長寿命化・耐用年数に関する方針が明確でなく、今後の整備計画が課題

■ 花宗用水組合（農業用水組合）

概要

明治 29 年設立の水利組合を起源とし、昭和 27 年に建設された花宗溜池（犬山ダム）などの利水施設を通じて、八女・筑後両市の約 6,000ha に農業用水を供給している。右岸（花宗川）を久留米藩、左岸（堀川）を柳川藩が管理していた歴史が背景にあり、分水のルールと地域間協調の仕組みが現代にも受け継がれている。地域農業の根幹を支えるとともに、土地利用や農村景観、住民の生活文化とも深く結びついている。



所管・課題

- 組合加入率に地域差があり、担い手不足・世代交代が大きな課題
- 耕作放棄地の増加により、実態と制度設計に乖離が生じている
- 老朽施設の維持管理が困難化しており、行政との連携強化が求められる

■ 山下地区排水機場（立花支所・農林課連携）

概要

令和 2 年 7 月豪雨で深刻な内水氾濫被害を受けた立花町山下地区に整備された排水機場。床上・床下浸水被害を受けた教訓を踏まえ、現在は機能強化が図られており、地域防災の拠点として再構築が進んでいる。小規模ながら地形・降雨条件を踏まえた運用が求められ、気象リスクの常態化を受けて今後の役割はますます大きくなると見込まれる。

	所管・課題 • 過去の災害被害による地域住民の信頼回復が求められている • 排水能力の強化・機器の更新は進んでいるが、運用体制の継続的な支援が必要 • 今後は住民との連携・情報共有体制の強化が防災対策として不可欠 --- **総括** 今回の現地研修では、八女市内に存在する基礎的な公共インフラの現場に実際に足を運び、行政担当者や関係団体から直接説明を受けるとともに、施設の運用状況や課題を五感で把握することができた。 黒木斎場、日向神ダム、花宗用水、山下排水機場――いずれも市民の生活や命と密接に関わる存在でありながら、目立ちにくく、平時にはその重要性が実感されにくい施設である。だからこそ、議員自らが現場に立ち、制度の背景や運用の実態、地域の空気感に触れることには大きな意味があると感じた。 各施設に共通して見られたのは、人口減少や高齢化に伴う「担い手不足」、想定を超える気象災害に対する「運用体制の限界」、そして施設老朽化と制度疲労の中で行政・住民双方が模索を続けているという「構造的課題」である。 たとえば花宗用水では、明治期から受け継がれた地域分水の仕組みが今なお機能している一方で、加入率の低下や耕作放棄地の広がりといった時代の変化に十分対応しきれていない現実があった。日向神ダムでは、災害リスクの高まりに対して、夜間や警報未発令時の情報共有体制に不安が残る現状が明らかになった。 また、これらの課題は単に技術や制度の問題にとどまらず、「行政と住民の信頼関係」や「地域の声の受け止め方」といった、社会的な側面にも深く根差している。黒木斎場における施設再編の難しさも、合理性だけでは語れない地域の思いや記憶に配慮しなければ前に進めないことを示していた。 山下地区排水機場についても、過去の災害によって傷ついた住民感情に対し、行政がどう寄り添い、信頼を取り戻すかが今後の防災行政の鍵となると考える。 こうした視察を通じて、「現場を見る」という行為そのものが、私たち議員にとって重要な職責であることを改めて認識した。今後はこの研修で得た知見と実感をもとに、市政の課題を的確に言語化し、必要な制度改革や改善提案を議会の場で具体的に提示していく所存である。